

上福島尾柄町遺跡

主要地方道藤岡・大胡線単独道路改築（改良）

に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2 0 0 2

群 馬 県 土 木 部
財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団

上福島尾柄町遺跡

主要地方道藤岡・大胡線単独道路改築（改良）
に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2 0 0 2

群 馬 県 土 木 部
財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団

序

上福島尾柄町遺跡は玉村町大字上福島に所在し、平成13年4月から6月にかけて主要地方道藤岡・大胡線道路整備事業に伴って発掘調査された遺跡です。発掘調査は群馬県土木部から委託を受け、財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団が実施し、平成14年1月から2月にかけて整理事業を実施しました。

この遺跡は、玉村町教育委員会が発掘調査を実施した「尾柄町Ⅱ遺跡」や「一万田遺跡」および「砂町遺跡」に隣接しています。

今回の発掘調査により、平安時代の水田跡とその下部から道路状遺構が確認されました。この遺構は、本遺跡の西方300メートル余りに位置する砂町遺跡で検出された、奈良時代の道路遺構に直線で繋がるものとして注目されています。

古代における畿内と関東、東北を結ぶ幹線道路の一つであった「東山道」の一部と推定されています。

この報告書が、考古学の研究者はもちろん、郷土の歴史に関心をお持ちの県民の皆様、さらに学校教育における郷土学習にも大いに役立つものと確信しています。

最後になりましたが、群馬県教育委員会文化財保護課、群馬県土木部道路建設課、同伊勢崎土木事務所、玉村町教育委員会、同町都市施設課、および地元関係者の皆様には、発掘調査から本報告書刊行まで終始御協力を賜り、心から感謝の意を表すとともに、発掘調査に携わった担当者、作業員の方々の労をねぎらい序といたします。

平成14年3月29日

財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団
理事長 小野 宇三郎

例 言

1. 本書は県道藤岡・大胡線拡幅工事に伴い埋蔵文化財発掘調査を行った、上福島尾柄町遺跡の発掘調査報告書である。
2. 本遺跡は群馬県佐波郡玉村町大字上福島字尾柄町339-4および352-5に所在する。
3. 事業主体 群馬県土木部（伊勢崎土木事務所）
4. 調査主体 財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団
5. 調査期間 平成13年4月2日～平成13年6月30日
6. 調査組織 財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団
理事長 小野宇三郎 常務理事 赤山吾三（事業担当） 吉田 豊（総務担当）
管理部長 住谷 進 調査研究部長 能登 健 係長 国定 均
総務課長 大島信夫
調査研究第3課長 中東耕志
資料整理課長 西田健彦
事務担当
総務係 笠原秀樹 須田朋子 片桐徳雄
経理係 小山健夫 吉田有光 森下弘美
吉田恵子 今井もと子 内山佳子 若田 誠 佐藤美佐子 本間久美子 北原かおり
狩野真子 松下次男 吉田 茂 藤原正義
7. 発掘調査担当 小野和之（主幹兼専門員） 須田正久（主任調査研究員） 井原陽一（調査研究員）
8. 整理期間 平成14年1月～平成14年3月29日
9. 整理担当 小野 和之 原 雅信 石川雅俊
本文執筆 第1章 第1節中東耕志
上記以外 小野和之
10. 発掘調査資料、出土遺物は群馬県埋蔵文化財調査事業団に保管している。
11. 発掘調査においては玉村町教育委員会、玉村町都市計画課、並びに関係機関、地元関係者各位には多大なご支援ご協力をいただきました。また坂爪久純氏より多くのご指導を受けましたことを感謝いたします。

凡 例

1. 調査区グリッドは国家座標（日本平面直角座標第Ⅱ系）に基づき5m方眼グリッドを設定した。
2. 方位は座標北を示す。
3. 遺構図の縮尺は全体図200分の1、他は60分の1である。
遺物図の縮尺は3分の1を基本とし、それ以外は図中に記した。
4. 本文中のAs-Aは1783（天明三）年、As-Bは1108（天仁元）年の浅間山を給源とする軽石をさす。

目 次

序

例言

凡例

本文目次・挿図目次・表目次・写真図版目次

第1章 調査の経過と方法

第1節 調査に至る経過

第2節 調査の方法

第3節 基本土層

第2章 立地と周辺の遺跡

第1節 地理的環境

第2節 周辺の遺跡

第3章 検出された遺構と遺物

第1節 遺構の概要

第2節 奈良・平安時代の遺構

1. As-B下水田

2. 1号大畦畔

3. 道路遺構(推定東山道)

第3節 出土遺物

第4章 調査の成果とまとめ

第1節 As-B下水田

第2節 道路遺構(推定東山道)

報告書抄録

写真図版

挿図目次

第1図 調査区設定図	2
第2図 基本土層	3
第3図 遺跡位置図	4
第4図 周辺の遺跡	5
第5図 A区全体図	2

第6図 B区全体図	8
第7図 1号大畦畔	9
第8図 道路遺構(推定東山道)	10
第9図 出土遺物	11

表目次

表1 周辺の遺跡	5
----------	---

写真図版目次

PL 1 1. 基本土層(A区西壁)	2. A区As-B下水田耕土下面(南から)
3. A区As-B下水田下面	4. A区推定東山道上層As-B下水田(南から)
5. A区As-B下水田面古銭出土状況	6. A区As-B下1号大畦畔(北から)
7. A区As-B下1号大畦畔(東から)	
PL 2 1. B区As-B下水田(南から)	2. B区As-B下水田(南から)
3. B区As-B下水田(南から)	4. A区推定東山道(南から)
5. A区推定東山道(東から)	
PL 3 1. A区推定東山道(南から)	2. A区推定東山道(南から)
3. A区推定東山道(東から)	4. A区推定東山道(東から)
PL 4 出土遺物	

第1章 調査の経過と方法

第1節 調査に至る経過（中東）

県教育委員会文化財保護課では、県土木部伊勢崎土木事務所から「主要地方道藤岡大胡線道路改築事業に伴う埋蔵文化財発掘調査」の事業紹介があり、平成12年11月24日に本事業団を含めた三者会議の席上で、玉村町北部公園入口藤岡大胡線拡幅工事の関連として、本事業地について最初の協議がなされた。本席上においては、発掘調査の必要があるならば、平成13年度当初に事業を実施することとして予定された。

その後、文化財保護課は平成12年12月7日に、現地調査を実施した。本現地調査により事業予定地内周辺部の地形と隣接地の遺跡との関係から、事業対象地は埋蔵文化財包蔵地としての確認がなされた。よって、本事業予定地には玉村町砂町遺跡で発掘調査された、推定東山道駅路の延長部分に遺構が存在する可能性が極めて高いことが判明し、本発掘調査の必要があるものと判断された。その結果を文化財保護課では、平成12年12月13日付け文書で伊勢崎土木事務所、及び玉村町教育委員会へ通知した。本事業団は事務連絡として、現地確認調査の結果を受けた。

本遺跡の発掘調査を平成13年度に実施する計画の調整に入り、平成13年2月14日に伊勢崎土木事務所と文化財保護課及び本事業団の三者調整会議を開催し、本遺跡について上福高尾柄町遺跡と命名するとともに、発掘調査と整理作業期間及び事業経費等について、具体的に詳細な部分の協議がなされた。

この調整会議をうけ、平成13年度4月当初から、発掘調査対象地を南北の調査区に分割して、発掘調査に着手した。なお、発掘調査着手後の平成13年5月31日に第3回目の調整会議を開催し、未検出である推定東山道駅路の問題、及び発掘調査終了後の整理作業について協議をおこなった。その結果、A区内のトラック駐車場出入り口部が未着手として残されていた部分の調査も実施することとなった。

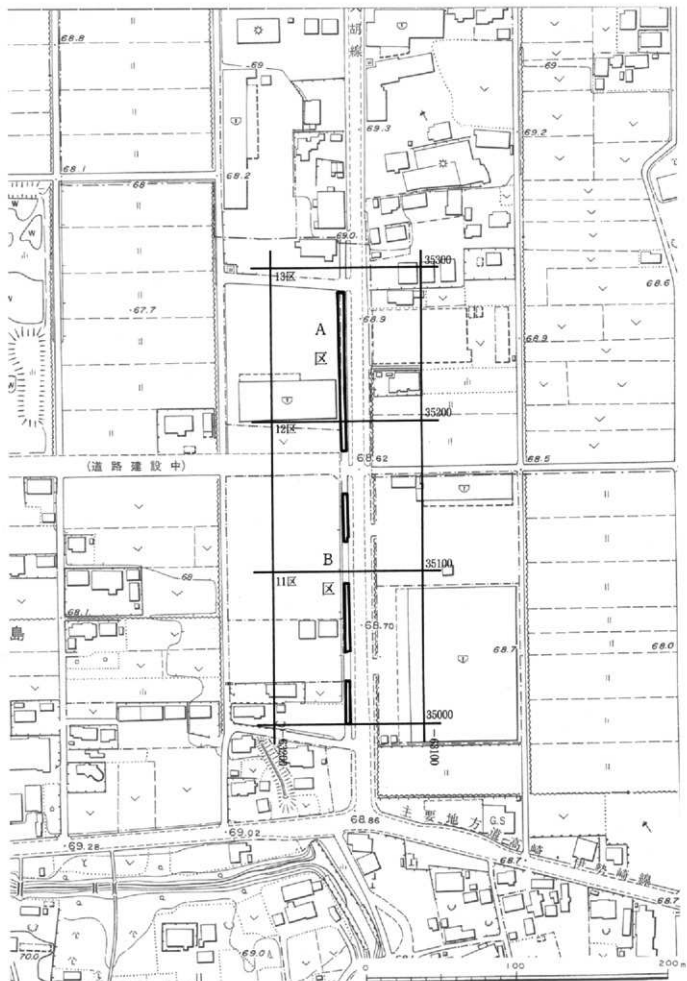
第2節 調査の方法

調査区は県道藤岡・大胡線が高崎・伊勢崎線と交わる上福高交差点から北、約280mの道路西側拡幅部分である。遺跡の周辺においては、玉村町の調査でAs-B下水田の存在が確認されており、本遺跡においても検出されることが予想された。また、今回の調査で最も注目された遺構として、推定東山道が上げられる。北西約300mに所在する砂町遺跡において、ほぼ直線で検出されており、さらに南東400mの中之坊遺跡でも確認され、両遺跡を結ぶ線上にあたる調査区内において、その存在が予想されていた。

発掘調査は北から南に向かって細長いトレンチ調査とし、横断する道路、出入り口部分を除き、遺構の検出を行った。その結果、調査区全域においてAs-B下水田が検出された。水田の調査終了後、水田耕土全面を掘り下げ、東山道の確認を行ったが、検出されなかった。このため、未調査部分のうち最も存在の可能性が高いと考えられたトラック配送所の出入り口部分の調査を行うこととなった。その結果水田耕土上において道路遺構（推定東山道）が確認された。

（調査区の設定）

調査区は前述のように南北約280m、幅約3mと細長いものであったが、基準方眼はこれまでの藤岡・大胡線関連の調査と同様に、国家座標区系を用いた。大グリッド36地区（1km）、中グリッド11・12・13区（100m）に位置し、各グリッド内を5m方眼で割り、南東隅を基点とし北へ5mごとにA～T、西へ5mごとに1～20として5m方眼の最小グリッド呼称とした。また調査区を横切る道路を境に北側をA区、南側をB区とした。（第1図）

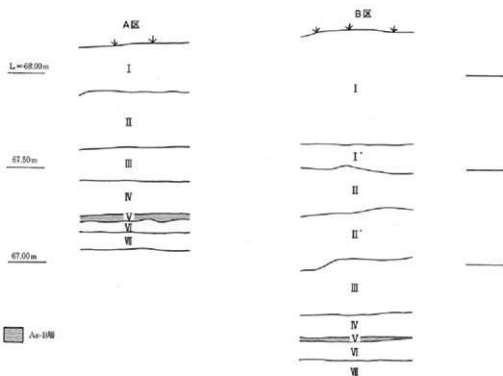


第1図 調査区設定図

第3節 基本土層

調査区内の基本土層についてはA区、B区ともにはほぼ同様であるが、南に向かうほど各層は徐々に厚さを増している。特にB区の南部分は近世の洪水層と思われる部分が厚く、分層も可能である。また、利根川沿いに堆積が認められる、浅間山給源のAs-A泥流層およびAs-Aについては、B区の最も利根川寄りにおいても一次堆積層は確認できなかった。

- I 表土 上面部分にはかなり削平や客土された部分が見られる。
下層部には近世以降の洪水層が見られる。
- I' 黒褐色土 砂粒、黒色土ブロック混入し固く締まる。
- II 灰褐色土 As-A、褐色土ブロックを多く混入し、締まりがある。
- II' 黄褐色土 微砂層、上位にAs-A軽石を混入する。
- III 緑灰色土 砂質土（洪水層）、締まりがあり均質、B区ではこの部分が厚く分層も可能である。
- IV 茶褐色土 As-B混土、上層に鉄分集積層。
- V 灰黒色土 As-B層、ほぼ全域で確認される。厚いところでは数cmを測る。部分的にアッシュを認める。
- VI 黒色土 粘性強く、混入物は少ない。（水田耕土）
- VII 灰白色土 粘性強い。



第2図 基本土層

第2章 遺跡の立地と周辺の遺跡

第1節 地理的環境

本遺跡の所在する佐波郡玉村町は関東平野の北西端に位置し、関東山地から流れ出した水が多く支流を集め流れ下る利根川、烏川などの水利に恵まれた地でもある。また赤城山・榛名山・妙義山の三山をはじめとし、さらに遠方には北に谷川岳、西には浅間山といった県境の山々を望むことができる。

利根川は町の北西から南東に向かってが流れており、西側には井野川が南流している。また、南側は烏川が埼玉県との県境となって流れている。このように玉村町は三方を河川に挟まれた地形となっている。上福島尾柄町遺跡は町の北部利根川左岸にあり、標高は68～69mである。

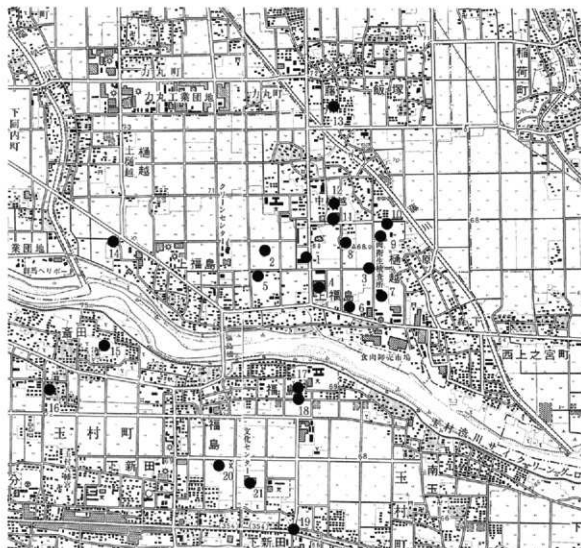
遺跡は約2万年前に浅間山の山体崩壊により流れ下った前橋泥流が作り出した台地の南端にあり、台地の東側には旧利根川の流路と考えられている広瀬川低地帯が、北西から南東に向かって細長く延びている。現利根川の流路は中世以降に形成されたものと考えられている。

遺跡地周辺は昭和40年代後半に実施された土地改良により、平坦な地形となっているが、全体的には南東方向に緩やかな傾斜を持つ。調査区は主要地方道藤岡・大胡線の西側、拡幅工事部分で、東側は道路、西側には配送所、事務所、駐車場等が接している。



第2節 周辺の遺跡

上福島尾柄町遺跡周辺は水田と住宅地が広がる田園地帯であるが、近年多くの工場や公共施設、道路建設等で都市化が進んでいる。こうした開発に伴い多くの発掘調査が行われ、周辺地域の歴史が明らかになりつつある。古墳時代以降の遺跡を見ると、集落遺跡としては松原遺跡、奈良・平安時代の遺跡としては一万田遺跡、神人村Ⅱ遺跡、原前Ⅱ遺跡などが挙げられる。生産跡としてはAs-B水田がかなりの広範囲で検出されている。本遺跡と一連と考えられる砂町遺跡、尾柄町遺跡や金免遺跡、神人村遺跡、柄添遺跡などで検出されている。本遺跡で検出された道路遺構（推定東山道）については、西側約300mに位置する砂町遺跡においてほぼ直線で250m程が調査され、さらに直線方向東側400mにある中之坊遺跡においても同じ走行方向の道路遺構が検出されている。



第4図 周辺の遺跡

国土地理院2.5万分の1地形図「高崎」(伊勢崎)使用

表1 周辺の遺跡

No	遺跡名	所在地	遺跡の内容	調査年・文献
1	上福島尾供町遺跡	玉村町上福島	木書所収	
2	砂町遺跡	玉村町上福島	古墳時代の排水路、奈良・平安時代の道路遺構(東山道)、平安時代の水田池	1998・1999
3	中之坊遺跡	玉村町上福島	道路遺構(東山道)。	町教委2001
4	尾柄町遺跡	玉村町上福島	平安時代の水田。	報告書1992
5	金免遺跡	玉村町上福島	平安時代の水田。	町教委1988
6	一万田遺跡	玉村町上福島	奈良・平安時代の官衙跡小。	町調査会1991
7	神人村Ⅱ遺跡	玉村町鶴越	奈良・平安時代の住居。	町調査会1992
8	阿佐美館	玉村町鶴越	中世館。	
9	原浦遺跡	玉村町鶴越	平安時代の住居地。	報告書1968
10	原浦Ⅱ遺跡	玉村町鶴越	古墳時代の溝、平安時代の集落、鎌倉時代以降の溝。	報告書1996
11	松原遺跡	玉村町鶴越	古墳時代、平安時代の住居。土坑、溝等	
12	松原遺跡	玉村町鶴越	平安時代の住居。	
13	藤川前遺跡	玉村町藤川	平安時代の水田。	報告書1993
14	納田浜遺跡	玉村町上福島	奈良・平安時代の住居、水田、江戸時代の堀。	町教委1992-6
15	田口下屋敷	玉村町青田	中世の屋敷跡	報告書2000
16	深町遺跡	玉村町上新田	平安時代の水田。	
17	福島曲口遺跡	玉村町福島	古墳、奈良・平安時代の住居、掘立柱建物、水田、近世の復旧溝等。	県国文事業団
18	福島久原田遺跡	玉村町福島	古墳時代、平安時代の住居、水田。中世の掘立柱建物、水田。	県国文事業団
19	福島大光坊遺跡	玉村町福島	古墳、奈良・平安時代の住居、水田。中世の屋敷跡等。	県国文事業団
20	福島坂塚遺跡	玉村町福島	古墳時代の方形周溝墓、水田。平安時代の住居、水田。中世の溝、ピット群等	県国文事業団
21	福島新荷木遺跡	玉村町福島	古墳、奈良・平安時代の住居等。	町教委1991

第3章 検出された遺構と遺物

第1節 遺構の概要

前述したように調査区は幅約3m、総延長280mと細長く、検出された遺構については断片的な検出にとどまらざるを得なかった。調査の結果、天仁元年(1108)降下とされるAs-B軽石に覆われた水田と、これに伴う大畦、水路が確認された、また注目される遺構として、同水田耕土下面より道路遺構(推定東山道)が検出されている。

その他溝、土坑等が確認されたがいづれも近世以降のものである。

第2節 奈良・平安時代の遺構

1. As-B下水田

A区(第5図)

調査区北から公園進入用の道路までの区間である。調査区の長さはおおよそ104mである。当初トラック配達所の入口部分約12mを除き調査を行った。As-Aについては、層としては認められず攪乱された状況でⅠ・Ⅱ層内に点在していた。Ⅲ層はやはり洪水層であるが、遺構面として捉えることはできなかった。

As-BはⅣ層とした混土層下に0~5cmの厚さで確認でき、一部灰層も認められたが、全体的に水で洗われた状況が窺え、厳密な意味での一次堆積では無いと判断される。水田面は粘性の強い黒色土で、比較的平坦な部分と、かなり凹凸が見られる部分がある。水田面は緩やかに南に向かって下がっており、明確な耕作痕や足跡等は確認できなかった。また、A区において検出された水田面は、北側に行くに連れわずかずつではあるが標高が上がっており、As-Bの遺存状況は悪くなる状況が観察された。また北端部分は緩やかに20cm程落ち込んだ状況を呈していた。

B区(第6図)

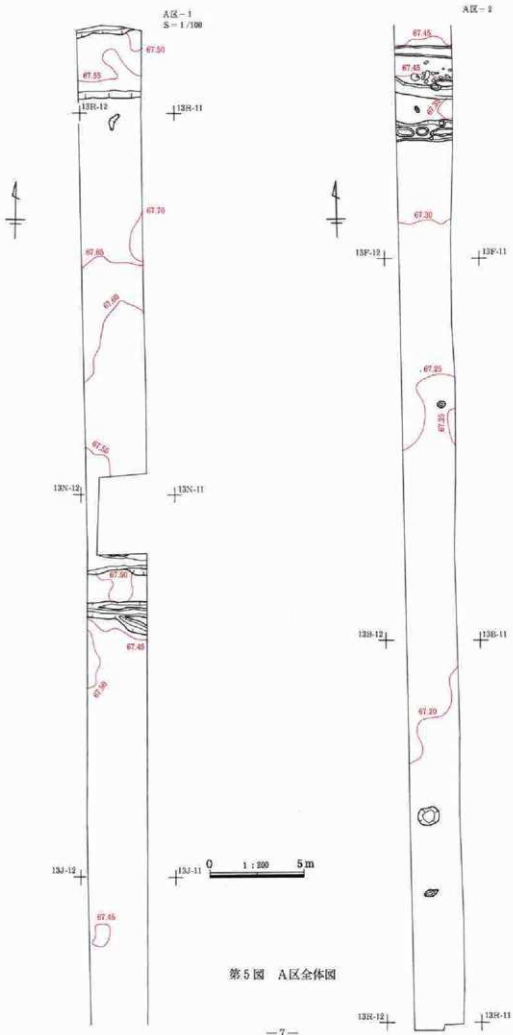
公園進入道路から南側約160mの部分である。調査区間に常用する出入り口があったために、3箇所に途切れた調査区とならざるを得なかった。調査の結果A区同様As-B層の下に水田遺構が検出されている。面の状況はA区同で、明確な足跡や耕作痕は認められなかった。耕作土は非常に粘質でしまりのある黒色土である。遺構としてはグリッド12-FとGラインの間に東西に走る溝が検出された他は、攪乱土坑が見られたのみである。水田面は南側に向かって傾斜が見られ、北と南との比高差は約1mである。

2. 1号大畦畔(第7図)

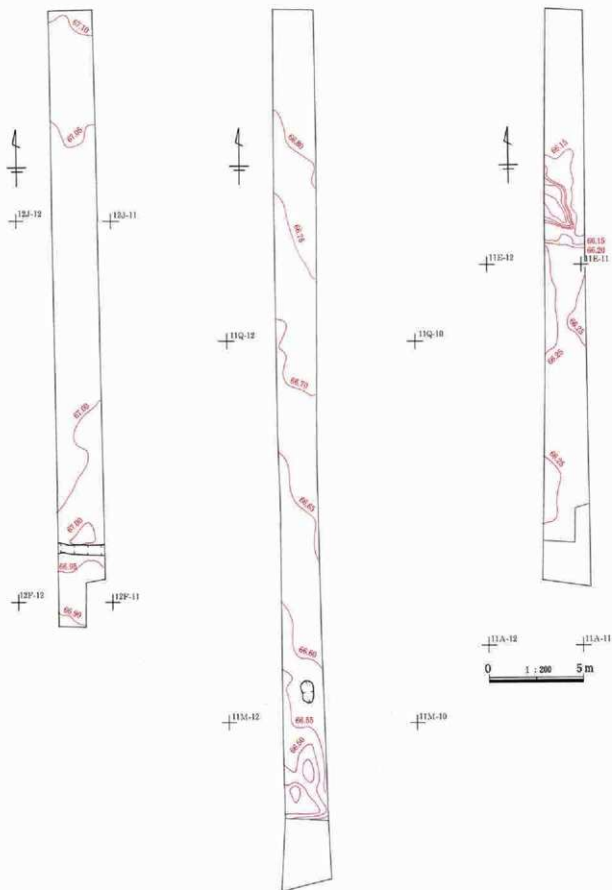
A区のHライン上で東西に走る幅約1.3mの大畦畔が検出されている。南側および北側に幅約50~60cmの浅い溝を伴っている。溝の深さは北側が約10cm、南側の溝は畦から約25cm程落ち込むが、南の立ち上がりが不明瞭である。畦畔の表面にはわずかではあるが砂の混入が見られる。畦畔の表面には小さな凹凸があるものの、比較的堅く締まっている。

今回の調査で検出された明確な畦畔としてはこの1号大畦畔のみである。その他には、南北方向も含め明確な畦は確認されなかった。

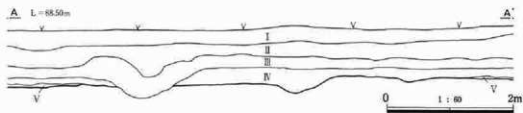
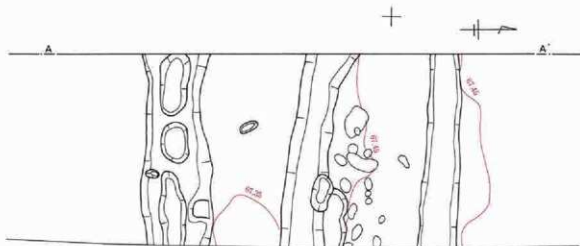
また、1号大畦畔の南側約1.5m程のところで検出された。1号大畦畔と平行して走る1号溝は、検出面での上幅は約1m、深さは約20cmであるが、西側の断面での所見では、当初の上幅が約1.5m、深さは約50cmを測る。掘られた時期は判然としないが、断面の形状や断面埋土の観察などから、中世あるいは近世の所産と考えられる。



第5图 A区全体图



第6图 B区全体图



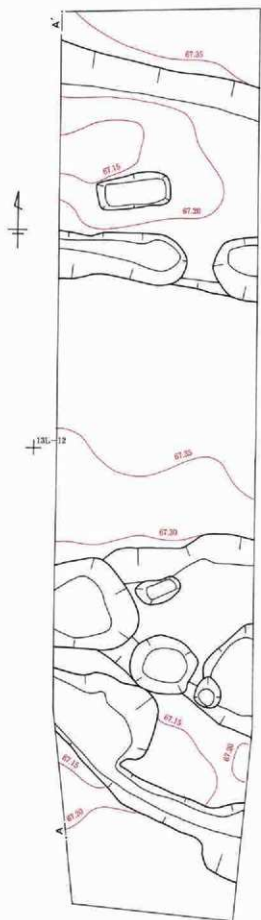
- I 表土 (黒褐色土) かなり攪乱が見られる。礫などの混入物が多い。
- II 灰褐色土 A₈-A混入、褐色土ブロック多く混入し雑まりがある。
- III 緑灰色土 砂質土、雑まり良く均一な土質。
- IV 茶褐色土 A₈-B混土、上層に鉄分凝集層が見られる。
- V 灰黒色土 A₈-B層、下部に少量の灰層が認められる。

第7図 1号大畦畔

3. 道路遺構(推定東山道)(第8図)

A区の調査区北、トラック配送所の出入り口部の調査で検出された。この場所については、当初最も推定東山道が存在する可能性の高いとされていた場所であったのであるが、昼夜を問わずトラックの出入りがあり、調査を行うには事前の調整が必要となった。調整の結果、期間を限って調査を実施することとなった。

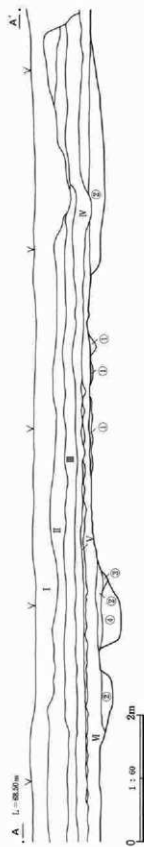
推定東山道上層においてはA₈-B下水田が引き続いて確認された。水田調査終了後、水田耕土の掘り下げを行ったところ東西に走る2条の溝が検出された。溝の心々間の距離は約7mで、道幅は約4mである。また溝の規模は北側が幅3.6m、深さ約20cm、南側が幅4.4~2.6mで深さは25cmである。特に南側の溝は土坑が連なった状況を呈し、底面の凹凸が著しかった。溝の上端ラインも曲線的で、東側で広がる状況を示す。また断面の観察では人為的に埋土された状況も見られた。北側の溝に関しては、上端のラインは比較的直線的で断面の落ち込みは緩やかであった。底面に長さ1.2cm、幅50cm、深さ約20cmの長方形の土坑が検出されているが性格は不明である。道路面については甌道後に上面が水田化されたために、かなり削平を受けてしまったものと考えられ、硬化面や凹凸などは認められなかった。



- I 表土 (黒褐色土) かなり肥肥が見られる。溝などの泥人跡多い。
 II 灰褐色土 As-A混入、褐色土ブロック多く混入し構まりがある。
 III 暗褐色土 砂質土、構まり良く均一な土質。
 IV 赤褐色土 As-B混入、上部に水分凝集層が見られる。
 V 灰褐色土 As-B混入、下部に少量の灰層が認められる。
 VI 深褐色土 粘性強く泥人跡少ない。(水田耕土)

III—II

- ① 黒褐色土 火山灰褐色粘質土ブロックを混入、部分的に砂を含む、路盤下部の上か。
 ② 暗褐色土 火山土 (黄褐色土) を含む構まりがある。
 ③ 暗褐色土 4と類似であるが、厚味を著ける。
 ④ 暗褐色土 火山黄褐色土をブロック状を含む。②-④は人為的な部分め土と見られる。

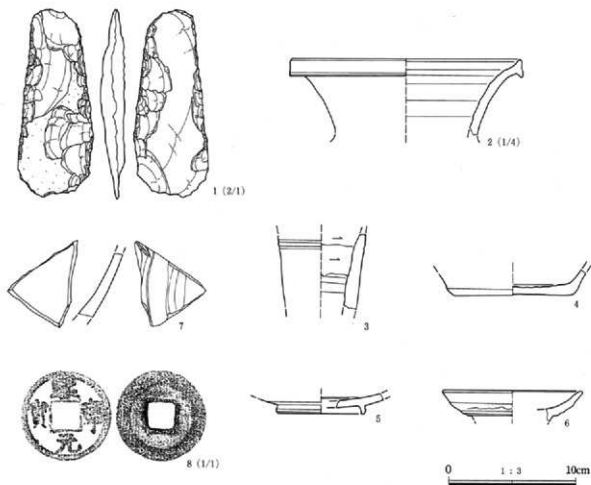


第8図 道路遺構 (推定東山道)

第3節 出土遺物

調査区のはほぼ全域において、II層～VI層中より遺物の出土があったが、点数は極めて少ない。As-B下木田耕土中より縄文時代の打製石斧、土師器、須恵器片などがわずかに見られた他、中世洪水層中より陶磁器片などが出土している。また、A区のAs-B水田面からは古銭が1点出土している。

1. 打製石斧：長さ9.9cm、幅3.3cm、厚さ1.3cm、重さ49gである。石材は黒色頁岩で、全体が摩滅。
2. 須恵甕：口縁部破片。胎土緻密で0.5～2mm砂含む。灰色で硬質である。内外面横撫で。
3. 灰釉長頸壺：頭部破片。胎土緻密、灰色。硬質。外面に灰オリブ釉、全体に貫入する。
4. 須恵平底坏：底部破片。胎土緻密。白灰色、0.5～2mm白色砂と赤褐色鉱物含む。回転糸切り。
5. 灰釉：底部破片。胎土緻密、灰白色、黒色鉱物含む。内面に釉。施釉方法不明。
6. 陶磁高台付坏：口縁部破片。胎土緻密、灰白色。硬質。内面全面、外面口縁～体部に浅黄色の施釉。
7. 青磁：体部破片。胎土灰白色、緻密にしてガラス質。内外面オリブ灰色の施釉、細かく発泡。
8. 銭貨：外径2.45cm、穿径7.0mm、面輪幅1.8mm、背輪幅3.9mm、厚さ0.9mm、鑄付き重4g。熙寧元寶。北宋銭。熙寧元年（1068）初鑄。銅銭。



第9図 出土遺物

第4章 調査の成果とまとめ

第1節 As-B下水田

本遺跡で検出されたAs-B水田は近接する遺跡で確認されている水田遺構と一連のものであると考えられる。今回の調査では、極めて細長い調査区であったためにAs-B水田に伴うと考えられる明確な遺構としては、A区において検出された東西に走る1号大畦畔1条のみであった、この大畦畔は幅1.2～1.6mで、畦畔としては比較的大きな規模を持つ。

大畦畔の上面と北側の水田面との比高差は約8cmである。また、この大畦畔を境として南北両水田面の比高差は約15cmである。畦畔の土は水田面とは明らかに色調、土質が異なっており、表面にはやや凹凸が見られるものの比較的平坦で砂を含み、かなり締まった状態を呈している。(註1)

この1号大畦畔は西側に位置する砂町遺跡において検出されたものと走行、規模が一致することや、表面の土は砂を多く含んでおり、かなり締まっている状況などが類似していることから、同一のものと考えられる。さらに東側渠道を挟んだ南東に位置する尾柄町遺跡(註2)は本遺跡と一連のものと思われるAs-B下水田調査されている。ここでは比較的大きな畦畔が十字方向に確認されている。この内の東西方向の畦と今回検出された1号大畦畔との距離は220m(約2町)を測り、2坪分の距離となる。さらに、この2条の畦畔の中間地点となるB区内の位置では東西に走る水路が検出されている。新しく掘り直された形跡があり、時期的には水田より下るものと判断されるが、この水路の南側において幅約3mほどAs-Bが途切れた部分が存在していた。高まりはほとんど確認できなかったが畦であった可能性も残る。さらに、A区北端部分においても水田面が途切れ、緩やかに落ちる部分が存在する。北側が調査区外であるために明らかな形状は不明であるが、1号大畦畔から北に約54m(半町)の地点であることも注目される。

本遺跡において検出された1号大畦畔および砂町遺跡、尾柄町遺跡において検出されている十字の大畦畔の走行は、ほぼ磁石線に沿っていることや、3箇所確認されている小畦畔からは、比較的単位面積の大きな水田区画が想定されている。こうしたことから、本地域におけるAs-B下水田は条里制地割をかなり良好な状態で残していることが窺える。

第2節 道路遺構(推定東山道)

推定東山道については第1章で述べたように、本遺跡を挟んだ砂町遺跡と中之坊遺跡において検出されており、両者を結んだライン上に調査区が当たっていたことから、調査開始時よりその存在が確実視され、注目されていたものである。

検出された推定東山道はA区のトラック配送所の出入り口部下に位置しており、As-B水田耕土下において確認された。層位的には砂町遺跡と同様である。両側溝間の心々間の距離は約7m、道幅は約4mである。砂町遺跡で検出されたものが、側溝心々間の距離9～10m、道幅が6.5～7.5mであり、比較するとやや狭くなっていることが指摘できる。また、中之坊遺跡で検出されたものは側溝間の心々間距離が約6mと、さらに狭まっていることが注目される。遺物は側溝内より、土師器の破片が2点出土しているのみである。両側溝の断面形は、いずれも緩やかな落ち込みで、かなり幅が広がっている。また何度か掘り返された状況も窺え、溝の上端ラインは乱れた状況であった。こうした様子は南側溝で顕著に見られた。

今回の調査では極めて小範囲での検出であったために、遺構についての構造を検討するまでには至らなかった。また道路面についても削平されたものと思われ、構築時の状況を示すような資料は得られなかった。

今回の調査で検出された推定東山道については以下のような点が指摘できる。

1. 玉村町において、砂町遺跡から中之坊遺跡に掛けての推定東山道(牛堀・矢ノ原ルート)はほぼ直線に走ることが再確認された。
2. 道路幅は砂町遺跡が側溝心々間距離で約10m、上福島尾柄町遺跡が7m、中之坊遺跡が6mと次第に狭くなっていることが認められる。
3. 側溝に人為的に埋土された状況が見られること。
4. 側溝の形状が土坑を連ねたような掘り方(南側側溝)を呈していること。何回かの修復が窺える。
5. 道路面は削られているために構築構造は不明、中之坊遺跡で見られたような波板状の痕は確認できなかった。
6. 廃道後はAs-B水田として土地利用されている。

今回の調査では調査区の幅が3mと極めて狭かったために、道路の構造や出土遺物に関しては、得られた成果は少ないと言わざるを得ないが、道路の直線性を確認した意味では、大きな成果であったと評価されよう。

道路遺構に関しては、東山道のみならず、当時の社会構造を知る上でも調査研究が今後、より進められてしかるべき対象として、その重要性が増しつつあると言える。

(註1) 砂町遺跡を調査した中里氏はこの大畦畔は、表面が古代道路遺構の路面の様子に似ていることから、「道」としての役割が大きかったのではないかと指摘している。

(註2) 玉村町教育委員会により1991年に調査が行われた。

引用・参考文献

- | | | |
|--|-------------|-------|
| 玉村町歴史文化財発掘調査報告書 第4集 「尾柄町遺跡」 | 玉村町教育委員会 | 1992年 |
| 中里正憲 「群馬県砂町遺跡の古代道路遺構」 | 古代交通研究 第9号 | 2000年 |
| 中里正憲 「砂町遺跡における大畦畔の調査例」 | 群馬考古学手帳10 | 2000年 |
| 群馬県立歴史博物館 第70回企画展「古代のみちーたんけんノ東山道駅路ー」 | | 2001年 |
| 坂井 隆 「東山道・あづま道を中心とする道路遺構の考古学的特徴」群馬県歴史文化財調査事業団紀要6 | | 1989年 |
| 高崎市遺跡調査会 「高崎市遺跡調査会文化財調査報告書55集 高崎情報団地遺跡」 | | 1997年 |
| 坂爪久純「上野国の古代道路」 | 古代文化 第49巻8号 | 1997年 |

報 告 書 抄 録

ふりがな	かみふくしまおがらまちいせき						
書名	上福島尾柄町遺跡						
副書名	主要地方道藤岡・大胡線単独道路改築（改良）に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書						
巻次	財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告第302集						
シリーズ名							
シリーズ番号							
編集者	小野和之						
編集機関	財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団						
所在地	〒377-8555 群馬県勢多郡北橋村大字下箱田784-2 TEL. 0279-52-2511						
発行年月日	2002年3月29日						
所収遺跡名	所在地	コード		北緯 東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号				
かみふくしまおがらまち 上福島尾柄町	佐波郡玉村町 上福島尾柄町	10464		36° 19' 57" 139° 7' 38"	20010401～ 20010630	1474㎡	道路拡幅
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項		
かみふくしまおがらまち 上福島尾柄町	生産	奈良時代	道路遺構	須恵器・土師器	推定東山道		
	生産	平安時代	水田	須恵器・土師器・古銭			
	生産	近世	溝				

写 真 图 版



1. 基本土層 (A区西壁)



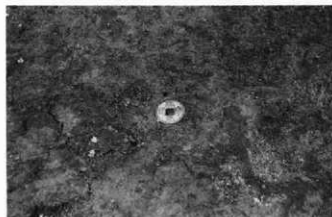
2. A区 As-BF水田耕土下面 (南から)



3. A区 As-BF水田 (南から)



4. A区 推定東山遺上層As-BF水田 (南から)



5. A区 As-BF水田古銭出土状況



6. A区 As-BF1号大畦畔 (北から)



7. A区 As-BF1号大畦畔 (東から)



1. B区 As-B下水田 (南から)



2. B区 As-B下水田 (南から)



3. B区 As-B下水田 (南から)



4. A区推定東山道 (南から)



5. A区推定東山道 (東から)



1. A区推定東山道（南から）



2. A区推定東山道（南から）

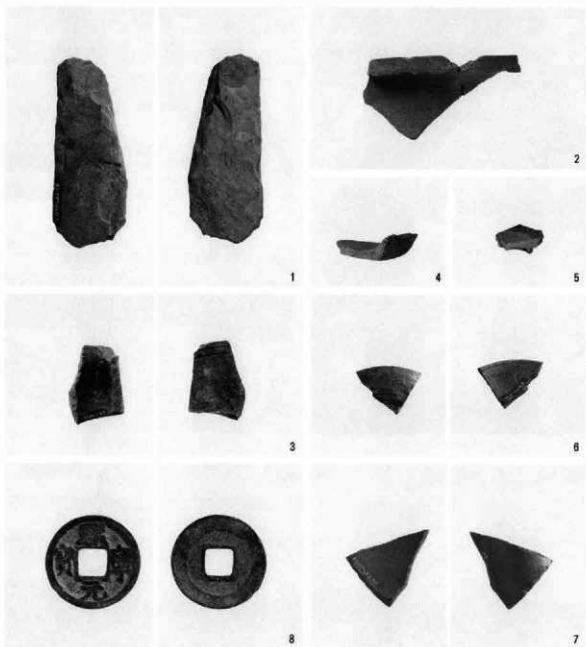


3. A区推定東山道（東から）



4. A区推定東山道（東から）

PL. 4 出土遺物



1. A区VI層

2. A区IV層

3. A区IV層

4. A区IV層

5. A区VI層

6. A区IV層

7. B区IV層

8. A区A₉-BF

財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書302集

上福島尾柄町遺跡 主要地方道藤岡・大胡線単独道路改築（改良）に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

平成14年（2002年）3月25日 印刷
平成14年（2002年）3月29日 発行

編集／発行 財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団
〒377-8555 勢多郡北橘村大字下箱田784番地の2
電話 0279（52）2511（代表）

ホームページアドレス <http://www.gunmaibun.org/>

印刷／松本印刷工業株式会社
